

児童数 134名 (学級数 8) 委員会活動 年 10回	令和元年度 統計 蔵書冊数 8,387冊 (新潟市学校図書標準 6,040冊) 貸出冊数 12,347冊 (一人平均 92.1冊)
---------------------------------	---

1 岩室中学校区小中連携事業計画

(1) 岩室中学校区における、めざす子どもの姿

中学校区の重点

「主体性」「自己表現力」「自己肯定感」の育成

【目指す子ども像】 「地域を誇りに思い、自分に自信をもって主体的に行動する子ども」

図書館教育部の重点

9年間で育む情報活用能力と学校図書館の活用の仕方

低学年…自分の読みたい本を探することができる。

中学年…百科事典、図鑑などで目次や索引を使って調べることができる。

高学年、中学生…資料を活用してテーマに則した自己解決を図ることができる。

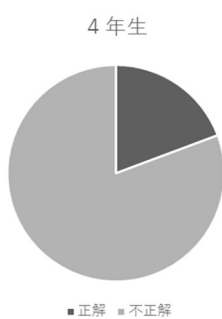
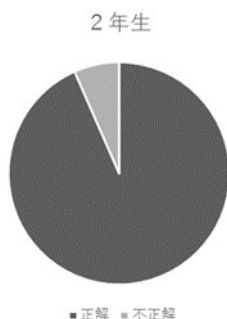
(2) 事前調査

9か年で育みたい情報活用能力の基礎づくりとして、低学年のうちから日本十進分類表に基づく10の分類を身に付けることを目標とし、中学校区の3校合同でアンケートを取った。

アンケート結果

問1 「物語」「歴史」「料理」「スポーツ」は何類ですか？

正解率 (%)			
	2年	4年	6年
物語	78.9	54.5	78.3
歴史	100	9.1	21.7
料理	94.7	13.6	17.4
スポーツ	100	0	17.4



岩室小学校図書館アンケート
年 組 名前

問1 □に0から9の分類番号を書いてください。例：「193」の本は「9」類です。

物語の本は □ 類。

歴史の本は □ 類。

料理の本は □ 類。

スポーツの本は □ 類。

問2 分からないことも図書館で調べて解決できますか？当てはまることに○を書きください。

	できる	まあ、できる	あまり、できない	できない
4年	18.2	31.8	45.5	4.5
6年	21.7	47.8	26.1	4.3

問3 自分で調べても分からないときは、図書館司書にヒアリングして解決できますか？当てはまることに○を書きください。

(ヒアリングとは、司書が利用者の調べものの種類について、お手伝いすることです。)

	できる	まあ、できる	あまり、できない	できない
4年	59.1	27.3	9.1	4.5
6年	78.3	17.4	4.3	0

問2 分からないことを図書館で調べて解決できますか？

2年生は分類表を見ながら回答した。

	できる	まあ、できる	あまり、できない	できない
4年	18.2	31.8	45.5	4.5
6年	21.7	47.8	26.1	4.3

問3 自分で調べても分からないときは、図書館司書にレファレンスをして解決できますか？
(レファレンスとは、司書が利用者の調べ物の相談にのり、お手伝いすることです。)

	できる	まあ、できる	あまり、できない	できない
4年	59.1	27.3	9.1	4.5
6年	78.3	17.4	4.3	0

→この結果から、本の悩みは、司書に聞くと解決できると感じている児童が多いことが分かった。図書を貸し借りするだけでなく、「調べることがあるときに司書に相談するとよい」ということ共有し、図書館活用能力を向上させていきたい。また中学校に入るまでに小学校段階で育てたい能力を、中学校校区でそろえられるように、互いに情報交換することの大切さを感じた。

2 岩室小学校の実態

(1) 読書センターとして

- ・読書量としては市内でも多い方ではなく、また年によって貸出平均冊数にかなりのばらつきがある。
- ・読書の質としては、学年に合わせた本の選び方ができるようになってきている。
- ・週2回の朝時間を利用したブックタイムでは、特に高学年では自宅から本を持ってきて読書をする児童がみられる。(貸し出し数=読書量ではない)
- ・低学年では、図書の時間以外にも休み時間に自発的に図書館を利用する児童が増えている。
- ・学年が上がるにつれて、読書の質や量の個人差が大きくなっている。

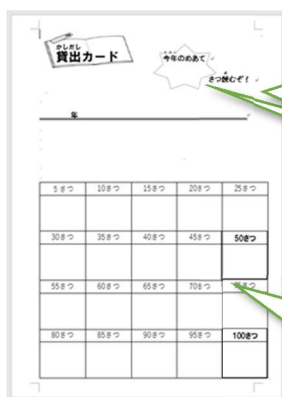
(2) 学習・情報センターとして

- ・各学級に図書館配当時間はあるが、計画的に利用しているのは低学年と特別支援学級にとどまっている。
- ・学習に必要な資料を、自館だけでなく公共図書館から借用し、クラスに提供する。
- ・児童が自力で資料を探す場合、インターネットと併用するという指導が多い。児童の多くはインターネットによる検索を好む傾向にある。
- ・少人数ではあるが、授業で疑問に思った点や、生活の上で興味をもったことに関して自力で資料を探してノートなどにまとめている児童がいる。

3 岩室小学校図書館部の取組

(1) 読書センターとして「児童が来館する図書館に」

① 貸出カードの工夫

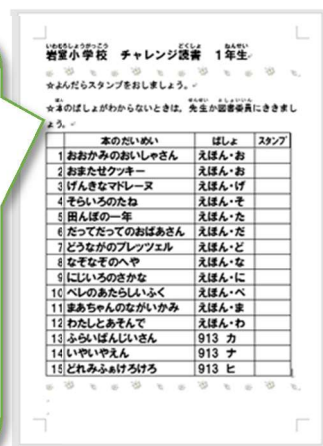


昨年度の貸出実績を司書が記入

今年目標冊数を記入

5冊ごとにスタンプを押す

学年ごとの「おすすめの本リスト」を貸出カードの裏に印刷する。自分で本を選ぶことが難しい児童にも効果がある。



本のたいめい	ぼしよ	スタンプ
1 おおかみのおいしやさん	えほん・お	
2 おまたせクッキー	えほん・お	
3 びんきなでしー	えほん・げ	
4 そらいろのたね	えほん・そ	
5 田んぼの一年	えほん・た	
6 だっだっのおぼあさん	えほん・だ	
7 どうぞがのプレッセル	えほん・ど	
8 なぞなぞのへや	えほん・な	
9 にじいろのさかな	えほん・に	
10 ベレのあたらしいふく	えほん・ベ	
11 まあちゃんのながいかみ	えほん・ま	
12 わたしとあそんで	えほん・わ	
13 ふらいばんしいさん	913 カ	
14 いやいやえん	913 ナ	
15 どれみふけるけろ	913 ヒ	

- ・貸出100冊ごとに表彰状とご褒美（貸出プラス券かしおり）のプレゼントをする。
- ・年度末には、貸出カードに「今年度の貸出冊数、入学以来今までの貸出総冊数」を記入したシールを貼って返却する。
- ・週2回給食時に司書が本の読み聞かせの放送をする。

②「うちどく」の取組

岩室中学校区で連携して夏休みに「うちどく」に取り組んだ。家族で同じ本を読むことで、児童がどのように感じているのか、親がどう思っているのか等、貴重な経験だったという感想が多く寄せられた。また、「うちどくカード」交流させたことで、興味をもってカードを読んだり、紹介された本を借りたりする姿が見られた。



「うちどくカード」の展示



中学校での展示の様子



岩室図書館に和納小と一緒に展示し、多くの来館者の注目を集めた。



【中学校図書委員との交流】

卒業生の「おすすめの本」紹介ポスターを中学校からお借りし、1ヶ月掲示した。イラストだけでなく、文章の表現やレイアウトの仕方、メッセージ性をもたせたキャッチコピーなど、上手な作品を見ることで「この本読んでみたい」という気持ちの高まりが感じられた。

③図書委員会活動の取組

- ・読書週間…今年度はいつもと異なる学校生活の中、従来どおりの活動ができなかったが、自校の図書館に愛着をもつとともに、本に興味をもってもらうためにはどうしたらよいか、委員会の活動として児童で意見を出し合い進めていった。

◎前期読書週間（6月15日～6月19日）

読書ビンゴ、読書郵便、図書委員によるおすすめ本ポスターの掲示

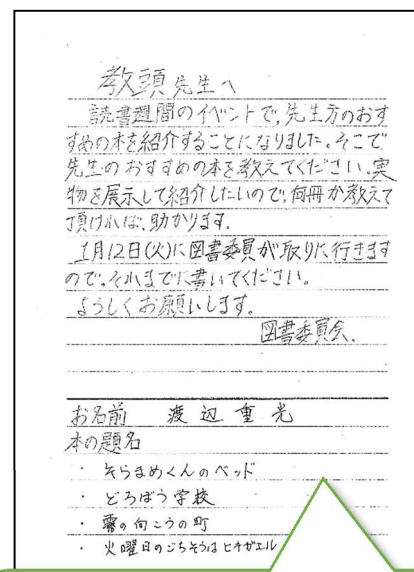
◎後期読書週間（1月18日～1月22日）

お楽しみ袋（貸出プラス券）、読書郵便、図書委員による図書館クイズの放送、

【先生方のおすすめ本の展示】



「先生方のおすすめの本」を展示するとたちまち人気No.1に！



本の題名をのみのアンケートにし、作成時間を短縮することができた。

【読書週間の様子】



「おすすめの本」を見て、「先生、どこにあるんですか？」と聞きに来る姿も見られ、図書館へ来る児童が増えた。



読みたい本をじっくりと探す時間が増え、中には立ち読みしていた子が座って読み込む姿もあった。

④読み聞かせの取組

今年度は外部からのボランティアを招くことができなかったため、司書が3密を避けた環境を整え、読み聞かせを行った。大型絵本を使ったり、絵のはっきりした本を選んだりした。



おしゃべりのできない給食の時間に、昼の放送として読み聞かせを行った。



⑤安心して来館できる環境整備（新型コロナウイルス感染拡大防止対策）

窓を開けての換気はもちろん、換気扇・エアコンも併用して換気に気を配った。

借りた本をすぐに貸し出さないで、72時間以上隔離し、ウイルスの感染予防をとった。

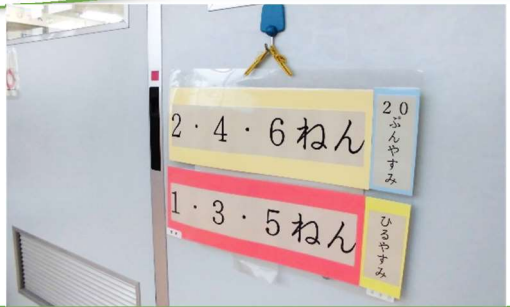
受付カウンターの飛沫防止パーテーション（突っ張り棒とビニルシート）

友達との間隔を保つための目印の設置（カウンターに密集しないように1mの印を付けた。）





座る向きを統一し、対面での読書を避けた。また、大きな丸テーブルを撤去し、児童同士の接近を回避するようにした。



休み時間に来館する学年を分けたり、長期休業前に図書を貸し出ししたりするなど、来館者数が多くならないように時間を調整した。児童も友達との間隔を保ったり、おしゃべりしないで過ごしたりして、図書館でのマナー向上にもつながった。

(2) 学習センターとしての機能を高める取組として 「図書館って便利！」

今年度は教科書が変わったため、例年使用してきた『前年度提供資料の履歴』の形式を変更し、『提供資料の提案』という内容で担任に単元ごとに連絡をした。現在の進度を担当から聞き取り、連携カードを作成した。

令和2年度 学校図書館年間活用教科・単元一覧表

新潟市立岩室小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年								国語 じどう筆すか んをつくらう (調べ学習)	国語 むかしはなし をよもう(開 読読書)	国語 のぼろた (開読読書)		
2学年		鑑賞 おおくなあ れわたしの 野太い(調べ 学習)										
3学年					国工 わたしの6月 の絵 (回遊)			国語 ずかたをか える水音 ことわざ 故 郷探訪		国語 詩のくふうを 楽しもう(開 読読書)		
4学年	総合 私たちがで きること(調 べ学習・福 祉)	総合 私たちがで きること(調 べ学習・福 祉)		国語 事実に基づ いて書かれて きた話(開 読読書)			国語 こんごつね (開読読書)	国語 要素にほこる 指輪(調べ学 習・技能工業)		総合 職業調べ		
5学年				自然教室 こけいばなし				国語 たずねびと (開読読書)	国語 探訪絵本 (開読読書)			
6学年			国語 私たちがで きること(調 べ学習)		修学旅行 福島県会津 地方につい て		国語 やまなし (開読読書)	家庭科 くふうよう おしい!衣 装(新立作 業)				
その他				給食委員会 給食番長				なかよし2(3 年)国語 米について				



先生方に提案した「光村図書の年間指導計画」に載っている内容を抜粋し、他学年の内容も分かる表にした。使いやすいように、担任が○を付けるだけの簡単なものにして活用した。

年間指導計画の参考図書を例示し、活用したい図書を用意するようにした。先生方も参考例があるので、本を選ぶ手間がなく、時間短縮につながった。

先生

以下の単位で資料のご活用ができます。

単元名

資料名

資料の活用希望があれば記載いたしますので、下記にご記入のうえ、
八景館の館員にお届けください。

- 活用期間 (_____)
- 必要冊数 (_____)
- 返本の可否 可・否 ()

◎こちらにもご記入いただけます
ご不明でしたらお問い合わせください

「学校図書館年間活用教科・単元一覧表」に掲載されていない図書を依頼する場合には、左のような「図書活用依頼カード」を活用した。

勤務時間が短い司書は、担任とコミュニケーションをとる時間が限られている。密な連絡や提案が必要な事柄が多く、話ができないときも、提案カードによりスムーズな資料提供ができた。司書はできるだけ迅速で正確な資料収集を行うことにより、担任への授業サポートをすることができた。



調べ単元では担任が教科書の内容をコピーして司書に渡すなどして、より授業のねらい達成に近い資料を集めるようにした。公共図書館にも相談し、シリーズものばかりではなく、関連した内容がある本を選定し、より深く学ぶ環境を整えた。また、資料を多く用意したことで、児童の多様なニーズに対応することができ、「資料を探して終わった」という時間を削減できた。

学習した資料を来年度にも活用するために「教科活用一覧」を作成した。昨年度までは依頼されるたびに前年度の資料から探し、時間がかかっていた作業である。このように、一覧にしデータ化することで実績把握の時間も短縮できた。また、データ化することで追記が可能になり、一覧表で多くの情報を得ることが可能となった。

令和2年度 学校図書館年間活用冊数

自：自校図書館貸出 公：公共図書館より借出 新潟市立岩室小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年								国語 じどう車ずかんをつくるう (調べ学習)	国語 むかしばなしをよもう (関連読書)	国語 のはらうた (関連読書)		
								自19、公1	自27	自4		
2学年		生活 おおきくなあれわたしの夏 まい(調べ学習・夏野菜)										
		自20、公14										
3学年					園工 わたしの6月の絵 (図鑑)			国語 すがたをかえる大豆 ことわざ・敬語成語		国語 詩のくふうを 楽しもう(関連読書)		
					自19			自3 / 自10		自3		
4学年		総合 私たちにできること(調べ学習・福祉)		総合 事実に基づいて書かれて本 ま読もう(関連読書)			国語 ごんぎつね (関連読書)	国語 世界にほころ和紙は調べ学習・伝統工芸)		総合 職業調べ		
		自20、公33		自25			自5	自21、公10		自15、公7		
5学年				自然教室 こわいほなし				国語 たずねびと (関連読書)	国語 古具茶碗の世界(関連読書・実話)			
				自4				自3 / 自10	自14			
6学年		総合 私たちにできること(調べ学習)			修学旅行 新潟県全道地方について		国語 やまなし (関連読書)	家庭科 くふうしようおいしい食事(献立作成)				
		自12、公9			公24		自1	自8、公35				

公共の図書館からの提供数

自校の図書館からの提供数

活用単元の入力

【年間活用冊数 1～6学年の内容】

(3) 情報センターとしての機能を高める取組について 「え～！こんなことまで分っちゃうの？」

①オリエンテーションでの分類指導

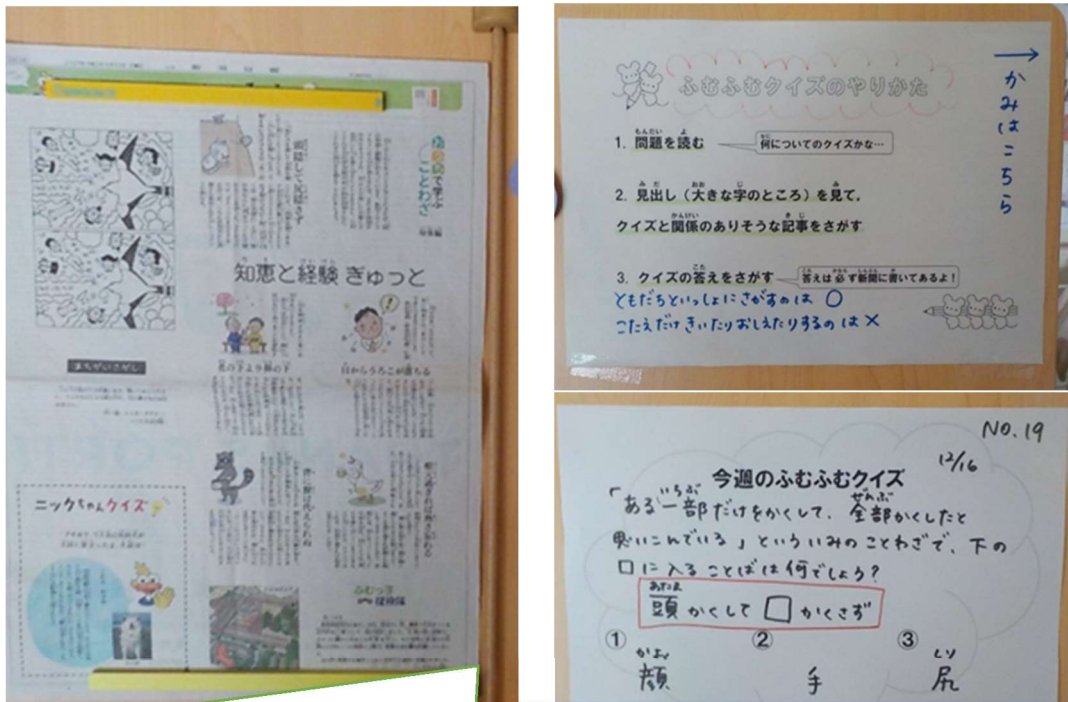
4月の図書館開きに「読み聞かせ」「図書館でのルール」の他、「分類番号の紹介」をしている。児童に興味をもってもらおうと、「新しい本の紹介」のポスターで、ラベルを書いて分類への意識を高めている。



新しい本は児童の興味・関心が高まる瞬間である。この機会を大切に、分類番号ラベルを表示し、「図書館のどこにあるのか」をスムーズに見付けられるよう啓発している。ポスターを手書きにしているのは、図書館の温かさや親近感につながると考えるからである。

②「ふむふむ」を活用した『ふむふむクイズ』

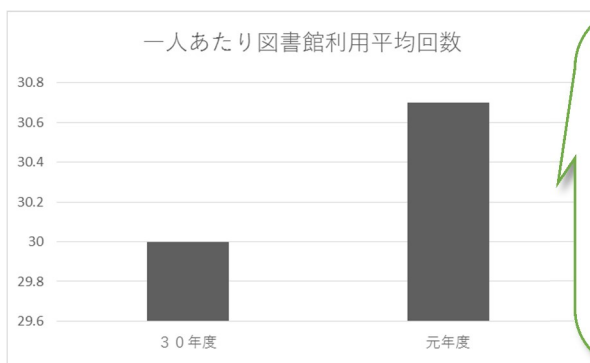
新聞に親しんでもらうために、新潟日報の小学生向け記事「ふむふむ」より『ふむふむクイズ』を毎週作成し、出題している。新聞の読み方の学習の他に、図書館に来る動機付けにもなっている。人気のある取組の一つであり、参加できる児童が増えてきた。



クイズは新聞を読めば必ず解答できるように出題している。「先生、分かったよ!」「クイズ、毎回楽しみにしてるよ」という声が聞かれ、学年を増すごとにファンが増え続けている。相乗効果として、「ことわざ辞典どこにあるんですか?」などに関連図書を探す児童もあり、分類番号を知るきっかけづくりにもなっている。

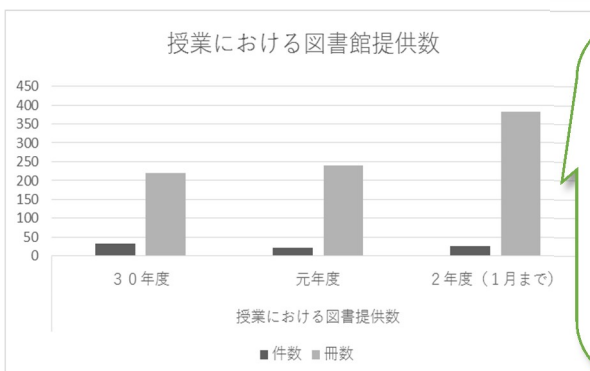
4 学校図書館活用の取組の成果と課題

(1) 【成果】



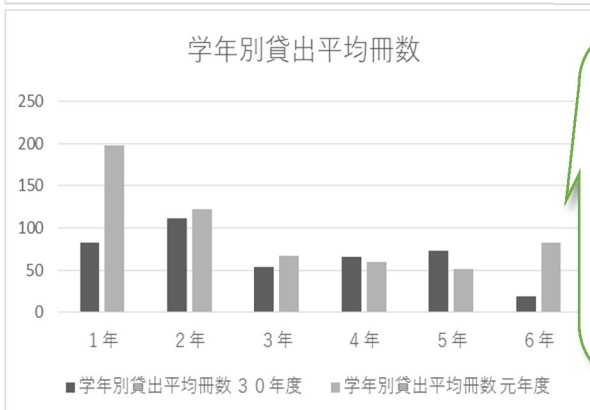
【一人あたりの図書館利用数】

- ・図書館の掲示板, おすすめの本, 新刊紹介等, イベントを企画することで, 図書館に興味をもってもらえることができた。
- ・「読み聞かせ」を行うことで本に対するの親近感や楽しさを味わえた。
- ・中学校との連携で児童の興味が高まった。



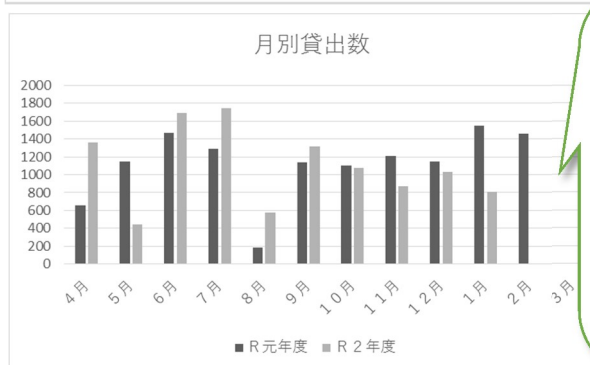
【授業における図書提供数】

- ・カードの活用により時間が限られている中必要な連絡が取れるようになってきた。
- ・単元一覧表を活用して事前に資料等を準備できる仕組みを作ったことで, 授業者も学校図書館を利用しやすくなった。



【学年別貸出平均冊数】

- ・児童と図書館, 児童と司書をつなぐ取組ができ, 児童が情報の収集, 選択できる環境が整ってきた。
- ・定期的に図書館利用をアナウンスし, 時間を調整して, 全員が貸出できる時間を確保することができた。



【月別貸出冊数】

- ・イベントを行った月は, 貸出数が多くなった。児童に直接届く「読書郵便」も効果が上がった取組であった。
- ・定期的に来館できるよう, 授業との連携や本の楽しみ方を伝えていく必要がある。
- ・図書の選定は児童のニーズに合ったものを選ぶことも大切なことだと改めて感じた。

(2) 課題

- ・中学校との連携で明らかになった「分類表」の習得については, 低学年から定期的な指導の機会を作り, 繰り返し指導する必要がある。
- ・毎年のイベントを同じものではなく, 工夫して開催することで変化を入れた取組になるよう, 司書・担任との連携を深めていく。
- ・単元一覧表や連絡カードを活用し, 限られた時間を有効に活用できるように計画的に進めていく必要がある。